日本外科代謝栄養学会第 62 回学術集会

会長：　鍋谷 圭宏［千葉県がんセンター副病院長（食道・胃腸外科）］

会期：　2025 年 7 月 3 日（木）～4 日（金）　※諸会議 7 月 2 日（水）

会場：　シェーンバッハ・サボー（〒102-0093 東京都千代田区平河町２丁目７－４）

テーマ：　教わり、学び、教える－外科代謝栄養学の伝承

演題募集期間：2024 年 12 月 20 日（金）～2025 年 2 月 20 日（水）

開催形態：現地開催のみ
第 31 回侵襲とサイトカイン研究会同時開催(2025 年 7 月 3 日）

概　要（予定）：

【特別講演】

・免疫に魅せられて
徳久　剛史 先生（千葉大学 名誉教授）

・AI が創造する「か」から「と」へ　～AI と医療の統合を目指して～
荘子　万能 先生（BonBon 株式会社 代表取締役）

【教育講演】

・外科疾患における常在細菌の関与：日本人の食生活と腸内細菌の健全化（仮）
池田　哲夫 先生（福岡赤坂大腸と胃の内視鏡クリニック 院長/
福岡歯科大学外科学分野・内視鏡センター）

・患者 QOL の向上を目指し外科医の働き方を考える
川平　洋 先生（自治医科大学メディカルシミュレーションセンター
センター長・教授）

【特別企画】

・外科代謝栄養学の魅力を伝えていくために（座談会：歴代理事長に訊く）
・メディカルスタッフが代謝栄養学を学ぶこと

【JSSMN/KSSMN joint symposium】
【International Session】
【日本アミノ酸学会ジョイントシンポジウム】

【教わり、学び、教える－シンポジウム】（公募、一部指定）
・予後向上を目指したがん悪液質対策
・わが国における術後早期回復の神髄は何か？

【教わり、学び、教える－パネルディスカッション】（公募、一部指定）
・外科・救急領域における GLIM 基準の使い方
・サルコペニア・フレイル対策の進歩と課題
・周術期・救急疾患治療時の血糖管理の意義と実際

【教わり、学び、教える－ワークショップ】（公募、一部指定）
・小児の代謝栄養管理のコツ－私達の考え方や工夫
・侵襲期の患者に対する栄養管理の up to date－早期栄養介入管理加算の導入を経て－

【要望演題】
・外科周術期管理における漢方の有効性
・腎機能低下患者の代謝栄養管理
・外科代謝栄養学の伝承を支える－基礎研究

【メディカルスタッフセッション】
・栄養指導を教わり、学び、教える
・これからの NST における専門職の役割は？

【一般演題（口演またはポスター）】
・代謝栄養学に関わる演題を幅広く募集します

ホームページ： https://shun-convention.jp/jssmn62/

大会事務局：千葉県がんセンター
〒260-8717　千葉県千葉市中央区仁戸名町 666-2

運営事務局：株式会社 春恒社
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9F
TEL：03-3204-0401
E-Mail：jssmn62-cytokine31@shunkosha.com